

目的：活力ある高齢社会を築くためには高齢者自身が積極的な生活態度を持ち、自立して生きがいのある生活をする必要がある。衣服をコミュニケーション財ととらえる視点から高齢者の意識を探る。

方法：積極的な生活態度を持つと思われる高齢者を対象にして1995、'96にアンケート調査を行った。対象は、デンマーク、コペンハーゲン周辺在住の男子26名（平均年齢71歳）、女子41名（平均年齢72歳）、日本は、東京近郊の友の会の男子122名（平均年齢72歳）、女子228名（平均年齢73歳）、埼玉県で英会話を学習しているグループの男子17名（平均年齢67歳）、女子33名（平均年齢67歳）である。コントロールとして新座市福祉センター利用者、男子18名（平均年齢72歳）、女子53名（平均年齢73歳）を資料として用いた。

結果：「毎日着る洋服を選んだり組み合わせることが好きですか」について女子は7～9割は好きと回答し、男子ではデンマークは6割、日本は3割である。「気に入らない服や似合わない服でもあれば着る」についてデンマークの男女は7～8割が着たくないという回答し、日本は4割～7割である。「自分なりのおしゃれで他人とちがう個性を発揮したい」についてデンマークの男女は7～9割の人が発揮したいと回答し、日本は4割～6割である。「皆の中にとけこめるめだたない服が好き」についてデンマーク、英会話の女子は4割が嫌いという回答している。「洋服で好きな色」はデンマークの女性は青、赤、緑の順に好きである。デンマークの男女は日本の男女よりコミュニケーション財としての被服による自己表現を大切にしていると思われる。